

旭川工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	体育Ⅳ
科目基礎情報						
科目番号	0021		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	人文理数総合科 (人文系)		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	後期:2		
教科書/教材	プリント					
担当教員	小西 卓哉,阿羅 功也					
到達目標						
1.互いに協力し合い、主体的に運動課題に取り組むことができる。 2.自己の能力に応じて、運動における基本技術の習得や体力向上を目指すことができる。 3.自分や周囲の安全に留意して活動することができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	準備・活動の場面において、自己および仲間のとるべき行動を判断し、適切に働きかけながら、主体的に活動できる。		準備・活動の場面において、自己のとるべき行動を判断し、仲間と協力しながら活動できる。		とるべき行動を判断できない。仲間との協力や活動への自主的な参加ができない。	
評価項目2	自己の能力を理解し、適切な運動技能、運動強度を判断し、技術や体力を高めることができる。		各自で設定した運動課題に従い、運動の基本技術や体力を身につけることができる。		教員の指示に従わず、運動の基本技術や体力を身につけることができない。	
評価項目3	自分や周囲の安全に留意しながら活動し、必要に応じて危険を回避する行動や、周囲への声かけができる。		自分の安全に留意しながら活動し、必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。		安全に留意しながら活動することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 人文理数総合科 (人文系) の教育目標 ④ 学習・教育到達度目標 本科の教育目標 ④						
教育方法等						
概要	さまざまなスポーツ種目の基本技術習得と経験を通して、生涯に渡って自主的に運動・スポーツ活動を実践する態度と能力を養成する。また合理的な運動学習によって社会性や公正な態度を身につけさせる。					
授業の進め方・方法	集団スポーツグループと個人スポーツグループに分かれ、各グループで練習やゲームの計画を立て自主的に運営できるようにする。集団スポーツ・個人スポーツともに基本的には、3学年までに学習してきたものとする。各グループにおいて人数、スペース、道具なども考慮して実施するスポーツ種目の計画を立てる。					
注意点	授業に際しては、安全面への配慮から必ず運動に適した服装で参加をすること。怪我の防止のために装飾品は外すこと。集団スポーツにおいては、チームワークの大切さを理解し、チームでの役割を考えチームプレーを心掛けて積極的に参加をすること。個人スポーツにおいては、勝利ばかりに固執するのではなく相手を尊敬し、認めたくうえでゲーム運営ができること。個人スポーツと集団スポーツの選択とし、5週（10時間）毎に再選択を実施する。各選択第1週目にグループ分けと計画立案を行う。各選択の最終第5週（10時間）目に自己点検・評価を各個人ごとにカードを用いて評価する。この作業を5週（10時間）毎、計3回行う。計3回の選択において全て個人、全て団体という選択も可とする。					
授業の属性・履修上の区分						
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス 選択1 グループごとに計画の実践①	・ 授業の心得がわかる。 ・ 個人スポーツ・集団スポーツグループの選択 ・ グループごとに種目選択、計画立案ができる。 ・ それぞれのレベルに合わせた練習方法を工夫することができる。 ・ ルール等を工夫し全員が楽しめる試合を進めることができる。 ・ ケガの防止等安全に配慮することができる。		
		2週	グループごとに計画の実践②	・ グループごとに計画立案ができる。 ・ それぞれのレベルに合わせた練習方法を工夫することができる。 ・ ルール等を工夫し全員が楽しめる試合を進めることができる。 ・ ケガの防止等安全に配慮することができる。		
		3週	グループごとに計画の実践③	・ グループごとに計画立案ができる。 ・ それぞれのレベルに合わせた練習方法を工夫することができる。 ・ ルール等を工夫し全員が楽しめる試合を進めることができる。 ・ ケガの防止等安全に配慮することができる。		
		4週	グループごとに計画の実践④	・ グループごとに計画立案ができる。 ・ それぞれのレベルに合わせた練習方法を工夫することができる。 ・ ルール等を工夫し全員が楽しめる試合を進めることができる。 ・ ケガの防止等安全に配慮することができる。		

		5週	グループごとに計画の実践⑤ 選択1のまとめ	・グループごとに計画立案ができる。 ・それぞれのレベルに合わせた練習方法を工夫することができる。 ・ルール等を工夫し全員が楽しめる試合を進めることができる。 ・ケガの防止等安全に配慮することができる。 ・選択1を振り返り、グループの課題、個人の課題を確認することができる。
		6週	選択2 グループごとに計画の実践①	・個人スポーツ・集団スポーツグループの選択 ・グループごとに種目選択、計画立案ができる。 ・それぞれのレベルに合わせた練習方法を工夫することができる。 ・ルール等を工夫し全員が楽しめる試合を進めることができる。 ・ケガの防止等安全に配慮することができる。
		7週	グループごとに計画の実践②	・グループごとに計画立案ができる。 ・それぞれのレベルに合わせた練習方法を工夫することができる。 ・ルール等を工夫し全員が楽しめる試合を進めることができる。 ・ケガの防止等安全に配慮することができる。
		8週	グループごとに計画の実践③	・グループごとに計画立案ができる。 ・それぞれのレベルに合わせた練習方法を工夫することができる。 ・ルール等を工夫し全員が楽しめる試合を進めることができる。 ・ケガの防止等安全に配慮することができる。
	4thQ	9週	グループごとに計画の実践④	・グループごとに計画立案ができる。 ・それぞれのレベルに合わせた練習方法を工夫することができる。 ・ルール等を工夫し全員が楽しめる試合を進めることができる。 ・ケガの防止等安全に配慮することができる。
		10週	グループごとに計画の実践⑤ 選択2のまとめ	・グループごとに計画立案ができる。 ・それぞれのレベルに合わせた練習方法を工夫することができる。 ・ルール等を工夫し全員が楽しめる試合を進めることができる。 ・ケガの防止等安全に配慮することができる。 ・選択2を振り返り、グループの課題、個人の課題を確認することができる。
		11週	選択3 グループごとに計画の実践①	・個人スポーツ・集団スポーツグループの選択 ・グループごとに種目選択、計画立案ができる。 ・それぞれのレベルに合わせた練習方法を工夫することができる。 ・ルール等を工夫し全員が楽しめる試合を進めることができる。 ・ケガの防止等安全に配慮することができる。
		12週	グループごとに計画の実践②	・グループごとに計画立案ができる。 ・それぞれのレベルに合わせた練習方法を工夫することができる。 ・ルール等を工夫し全員が楽しめる試合を進めることができる。 ・ケガの防止等安全に配慮することができる。
		13週	グループごとに計画の実践③	・グループごとに計画立案ができる。 ・それぞれのレベルに合わせた練習方法を工夫することができる。 ・ルール等を工夫し全員が楽しめる試合を進めることができる。 ・ケガの防止等安全に配慮することができる。
		14週	グループごとに計画の実践④	・グループごとに計画立案ができる。 ・それぞれのレベルに合わせた練習方法を工夫することができる。 ・ルール等を工夫し全員が楽しめる試合を進めることができる。 ・ケガの防止等安全に配慮することができる。
		15週	グループごとに計画の実践⑤ 選択3のまとめ	・グループごとに計画立案ができる。 ・それぞれのレベルに合わせた練習方法を工夫することができる。 ・ルール等を工夫し全員が楽しめる試合を進めることができる。 ・ケガの防止等安全に配慮することができる。 ・選択3を振り返り、グループの課題、個人の課題を確認することができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	後1
			他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	
			合意形成のために会話を成立させることができる。	3	
			書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
			収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	

				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	2	
				周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	後2
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	後2
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	後2
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	後2
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	後2
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	3	後2
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3	後2
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	3	後2
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	2	

評価割合							
	活動計画・自己評価	発表	まとめレポート	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	30	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	70	0	30	0	0	0	100